

2010年(平成22年)

第28号

(4月15日)

平安月報

The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 宮地啓安
 〒605-0041 京都市東山区三条蹴上
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

4月8日はお釈迦さまの誕生日

釈尊のご生誕を祝う降誕会。京都教会では、4月4日の「花まつり」と、8日の「降誕会」が開催された。また、同日(4月8日)には、京都仏教会主催の「おしゃかさまをたたえる夕べ」が全日空ホテルで開催された。

4月4日、京都教会において、子供たちを中心に、お釈迦さまの誕生日をお祝いする「花まつり」が行われた。子供たちによる献花に始まり、子供たちが導師を務めての読経供養、お釈迦さまを讃える稚児讃嘆文の朗読、と式典が行われた。その後、子どもたちはお釈迦さまのクイズやレクで楽しいひと時を過ごした。

4月8日、同じく京都教会において、降誕会が開催



(花まつりでの読経供養)



(花まつりでのレク)

された。コールコスモス(合唱部)の合唱で始まり、読経供養を行い、厳かに式典が行われた。その後、2人の会員の体験説法に続き、益田晴代さんによる釈尊の生母マーヤー夫人について講演があった。「キリスト教では、聖母マリアについて語られるが、釈尊の生母マーヤー夫人はあまり語られない」と、益田さんは、生母の尊さ、女性の偉大さを強調された。

同日、京都仏教会が例年実施している「おしゃかさまをたたえる夕べ」が全日空ホテルで開催された。

キリスト教のクリスマスのように、4月8日は仏教徒にとって大切な日であることをもっと広めていきたいものだ。



(降誕会で講演する益田さん)



(おしゃかさまをたたえる夕べ)

庭野平和財団講演会 2010 開催要領決まる

5月14日(金)13時から15時30分、京都専門館において、「京都発・宗教者の新たなチャレンジ~女性、仕事、そして平和~『女性による社会起業による平和な社会の実現を目指して』」と題して、庭野平和財団講演会が開催される。

先月、紹介した第27回庭野平和賞受賞者、エラ・ラメッシュ・バット女史を講師に迎える。昨年までは、基調講演と対談が行われていたが、今回は女史の希望もあり、参加者と直接対話する時間が多くとられている。

参加希望者は、(財)庭野平和財団講演会・京都事

務局まで(氏名、所属団体、連絡先をFAXで)
(FAX:075 762-2266)

会場
京都市東山区三条けあげ東町230番地
プログラム

- 13:00 開会
- 13:10 基調講演
エラ・ラメッシュ・バット女史
- 13:40 対談
「女性のための世界銀行」日本支部代表
奥谷京子女史
- 14:30 対話の時間
- 15:30 終了

4月8日、オバマ米大統領とメドベージェフ露大統領は、チエコの首都プラハで両国の戦略核を削減する新たな核軍縮条約に署名した。これにより両国は核軍縮や核不拡散(NPT)体制の強化で世界をリードする姿勢を鮮明にした。

これに先立ち、オバマ大統領は、核を持たない国やNPTを遵守国には核攻撃を行わないとする政策を打ち出した。一年前に同じプラハで行った「核なき世界」を目指すとする演説を行ったが、その一步を踏み出した。

中国の昔話に、隣の村には危険な道しかない山奥の村に住む男が、山にトンネルを掘ることにした。村人たちは馬鹿なことだと言った。その男は、自分だけでできなくても、子供やその子供が掘れば、いつか出来るかと答えたという。

核兵器廃絶なんかできないという人も多い。だからこそ、行動を起こさないと、いつまでも平和はやってこない。

時 事 刻 々

かめおか こころ塾 - 亀岡宗教懇話会が開催 -

4月10日、ガレリアかめおかにて亀岡宗教懇話会主催のこころ塾が開催され、社会福祉法人青葉学園理事長、村田弘道氏が「何かおかしいゾ！いまの社会」と題し講演を行った。

同氏は78年生きてきて今が世の中一番悪いのではないかと、社会全体の異常さを「精神異常社会」「おまかせ社会」「無責任社会」「節目のない社会」「正義なき社会」「テーマ乱用社会」「高度技術社会」と具体例を示した。

「精神異常社会」とは毎日のように殺傷事件が起こり、理由はそこに人がいたから、人を殺したくなったからと報道される異常さ、また自殺も毎年約3万人にのぼる異常さを指摘。「おまかせ社会」では人が死ぬと公益社に依頼し、留守番はセコム、ご飯は全自動の炊飯器が行うなど昔は全て自分たちでやっていたことをお任せしていると述べた。「無責任社会」とはつまり非常識であるとし、義務教育であるなら給食費を払わなくてもよいという親、給食費を払っておれば

『いただきます』を言わなくてもいいという親が実在すると報告。「正義なき社会」ではお年寄りを騙してお金を取る、結婚詐欺・投資詐欺、電車でのマナーを挙げ、また若者の学生運動がなくなったとし若者の正義感低下を指摘した。「テーマ乱用社会」とは何かあればすぐに人権侵害や人間は平等だと訴えるが人生はそもそも不条理で平等であるが平等ではない、格差みたいなものであると述べた。

「高度技術社会」になったものの、昔のように電話がない時代は近所に電話を借りに行き、風呂を沸かすにも薪で人の手を借りて沸かしていたと幼少の頃の生活を披露し、また切符を買うのも現代は人の顔を見なくてもいいと、人と人との関わりがなくなってきた社会を述懐した。

約1時間半の講演ではユーモアを交えながら持論を展開し、参加者一同はその巧みな話術に引き込まれていった。



「立正虎成会」の記念レンガ 甲子園球場に

2009年、京都明社から5名(鈴木南平、澤村恭央、山本恭央、湯浅悦子、杉江末吉)が「立正虎成会」に入会した。同会は、2005年、阪神タイガースをこよなく愛する立正校成会の本部・佼成出版社・全国の教会・その他団体の老若善男善女など30名により結成された。

最高顧問は宗教評論家のひろさちや先生、会長は本会の川端健之総務局長、副会長は齋藤高市墨田教会長、事務局長は全国明社の「ど虎吉」竹嶋克之主査。



ひろさちや先生デザインのTシャツや揃いのワッペンを着けてアッチコッチの球場応援に行くほか、年に数回集まってタイガースへの熱愛を確認しあっているという。(飲み会)

この度、阪神甲子園の全面改修に際して、外周道路に3万枚の記念レンガの敷き込みが計画され、「立正虎成会」もこの計画に応募した(1枚2万円)。

今年の3月末、記念レンガの敷き込みが完成し、同会のレンガはライト側外野照明塔のふもと(A7-530番)に設置された(写真)。

同会の杉江氏は、「甲子園球場に行かれた方は是非、このレンガを確認して欲しい」と呼びかけている。



他教団活動紹介

祝！周年記念

このたび4月3、4日に立正校成会豊中教会において50周年式典が行なわれました。また4月11日には神戸教会において60周年記念式典が行なわれました。両教会は近畿ブロックの先駆者的存在で近畿布教の拠点ともなった所です。このたびの慶事に心からお祝い申し上げますと共に、今後の益々のご発展を祈念いたします。おめでとうございます。

私たち kinki.genki

近畿ブロックのホームページのトップが更新されました。(http://www.rkk-kinki.jp/)

「明るくあたたかくあなたに元気を伝えたい」と11教会が力を合わせて精進していきます。各教会の写真をクリックすることでそれぞれの教会ブログへリンクしますので最新情報をご覧頂くことが出来るようになりました。ちなみにプラカードを持っているのは「子仏陀ちゃん」と言います。ぜひ一度ご覧下さい。

アフリカへ毛布をおくる運動

「アフリカへ毛布をおくる運動」が、今年も4月1日から5月31日まで実施される。貧困や紛争などに苦しむアフリカの人々を支援するとともに、いのちの尊さやつながりを学び、社会に分かち合いの精神をひろめることを目的としたこの運動は、これまで会員や市民から389万7205枚の毛布が寄せられ、20カ国以上に届けられてきた。今年も1枚でも多くの毛布がアフリカへ届けられることを念願する。

【テーマ】みなひとつの大いなるいのちの中に生かさ

れている。だからこそ、心をつなぎ合い、認め合い、支え合っていこう』

【毛布収集期間】4月1日(木)～5月31日(月)

【配付対象地域】エチオピア、ジブチ、ソマリア、モザンビークなどのアフリカ諸国

(最終決定は7月頃の予定)

【海外輸送協力金】

毛布1枚につき1000円

(これまでの900円から変更)

お問い合わせは、京都教会の青年部または渉外部まで。



佼成会のことば

お通し(道を通す)

「お通し」には二つの意味があります。一つは「財施」のこと。人間が一番執着しやすいのはお金やものです。最もとらわれやすい財を仏さまに感謝の心で捧げさせていただくことによって執着の心から解放され、仏さまと感応道交する心が生じて仏と一体になれるのです。

二つ目は、ともすると迷いがちで、自分勝手な心を立て直すために、先輩幹部に報告し、ご指導を仰ぐと

いう意味。こうすることで、仏さまに道を通しているのです。つまり、自分の心や行いが法に照らして正しいか、適切であるかを確認する行いです。幸せになりたいと一生懸命に修行していても、日々の行いが法にかなったものでなければ良い結果は得られません。

そんなことがないように、「お通し」によってその都度、修行のあり方を確認するのです。先輩幹部の言うことを謙虚に聞き、先輩幹部と共に仏さまにひれ伏し素直な心で仏道を歩んでいくと、知らず知らずのうちに煩惱や執着から解き放たれます。そして、もともと具わっている仏性が光り輝いてくるのです。

仏教を生活に生かす 「日常生活の中の仏さまの教え」

《平和をつくりだす人……宗教協力》

1976年、シンガポールで第1回ACRP(アジア宗教者平和会議)が開かれていた時です。「ベトナム難民が沖合いを漂流している。食料もなく、嵐も近づいている。上陸許可は下りず、小さな船の中で飢えと死に直面している」という情報が入ってきました。

当時はまだ国連すら、ベトナム難民に対する救援活動は行っていませんでした。ACRPとWCRPの役員が協力して、救助のための手を打つべきであると勧告しました。しかし、事態はそう簡単ではありません。500人を超す人たちの受け入れ、国際法上の問題、複雑なアジアの政情など、難問がいくつもあります。

なかでもいちばんの問題は資金です。いくら会議を重ねても結論が出ず、万策尽きたと思われたとき、日本の役員が緊急に集まりました。神仏のみ心に沿ったことならば必ず通じると信じた庭野開祖は、役員の方たちに「今こそ、宗教者としての真の実行をしなければならぬ時が来た、と私は信じます」と切り出し、資金援助を最初に申し出られました。庭野開祖のこの言葉に、役員の方々は皆、深くうなずかれました。そして最終的にWCRP日本委員会は、資金の半分を拠出することを決定したのです。

この決定により、全体会議が一転し、救援活動は一気に展開しました。そして、この宗教者の動きがさ

かけとなって、国連も本腰を入れて難民救済の活動を展開したのです。「宗教は教義の中に存在するのではなく、真摯な行動の中にこそ存在するのです」庭野開祖はACRPの閉会式で、このようにスピーチされました。庭野開祖にとっての平和活動とは、理念や理想ではなく、仏性開顕を具体的な形に現すことであり、すべての人びとの仏性を礼拝することにほかならなかったのだと思います。

「人を拝める人が一人いたら、仏さまは、ちゃんと幸せにしてくださるんだよ」。これは、人間の本性は仏性であることを心底から信じていた庭野開祖の、人間への徹底した信頼の言葉です。庭野開祖の願われた「平和」は、このお言葉の中に込められているように思います。みんなが同じ人間であり、仏さまの子どもです。いのちを持っています。そして、仏性そのものなのです。難題に出会ったときこそ仏性を信じ切り、拝み切れる自分であるかが分かるのです。

法華経はすべてを認め生かしていく教えであり、あらゆるものに仏性があり、同じ命を与えられているのだという教えです。対立ではなく、それぞれの持ち味を生かしつつ共に生きる、この思想こそ現代を救うものです。対立や抗争の世界を協調と寛容を基にした平和な世界に変えるのは法華経の教えであり、人類を幸せに導くのも法華経の教えです。

庭野開祖の宗教観・平和観 「一乗の道」

《中国代表の参加を願って》

ベルギーのルーベンで開かれる第2回世界宗教者平和会議(WCRP)が4ヶ月後に迫っていた。庭野開祖はその会議について、中国の宗教者の方々に説明し、「今は、世界の宗教者が国の違い、宗派の違いを超えて協力しあわなくては、どの国の平和も守れない時代です。中国の宗教者の皆さんも孤立せず、世界宗教者平和会議という場を通して世界に向かって発言していくことが、お国の平和を守ることに繋がると思っています」と熱心に説得した。

中国の宗教者の方々は何度もうなずいて聞いて下さったが、その会話の中に、「外国の天主教の宣教師が過去にたくさんやって来たけれども、彼らはスパイだった」といった話が出てくるような状態で、中国代表が世界の会議に出席できるようになるには、まだかなり時間が必要だという感じだった。しかし、その後もあきらめなかった。ニューヨークのWCRP国際委員会事務局では、ジャック事務総長が在米中国大使、在カナダ中国大使館、国連中国代表部と接触を持って世界会議への中国代表の参加要請を続け、またWCRP日本委員会も、中国仏教教会、在日中国大使館を通して、会議参加の要請を続けた。

その長い努力が、ついに実る日が来たのであった。第3回世界会議の開催が迫った昭和54年7月、「世界宗教者平和会議について、もう一度説明に来てもらえないか」という中国からの要請があった。庭野開祖は急遽、訪中した。出迎えた趙樸初師が、こう申し出られた。「第3回世界会議に、私たち中国代表も参加したい意向を持っています。私たちはこういう世界会議に参加するのは初めてです。庭野先生に、会議の間も色々お骨を折って頂きたいのです」こうして、ついに第3回世界会議に中国宗教代表が参加することになった。

アメリカ合衆国ニュージャージー州のプリンストンは、ニューヨークとフィラデルフィアのほぼ中間に位置する町だ。ニューヨークから約80キロ、車で一時間ちょっとの距離だが、超高層ビルが林立するニューヨークとは違い、静かな学園都市だ。緑の木立と芝生が広がる町の半分を、創立二百数十年の歴史を誇るプリンストン大学が占めている。

昭和54年8月、第3回世界会議は、このプリン

ストン大学の構内にあるプリンストン神学校ミラー礼拝堂に、48カ国の宗教代表350人を集めて開会した。「世界共同体を志向する宗教」をメインテーマにしたプリンストン会議への中国の宗教代表の初参加は、まさにその象徴でもあった。

「地球上の人類は運命共同体である」と、誰もが言う。だが共同体を実現するには、自分と他人を分け隔てる心の垣根を取り払わなくてはならない。エゴイズムを克服する格闘を、個人から社会へ、そして国家間へと広げていかななくてはならない。世界宗教者平和会議は、宗派の違いを乗り越えて互いの宗教に敬意を払うのと同時に、イデオロギーの違い、国家体制の違いをも乗り越えて、宗教者が平和のために協力しあうことを目指してきた。

京都会議以来、十年間にわたって続けてきた中国代表の参加要請に対して、「中国代表の参加は、到底不可能だ」「徒労だ」と見る人も少なくなかったのだが、それでも同志たちはあきらめなかった。それが中国の宗教者の心を解きほぐしたのである。中国代表団は、中国仏教教会会長の趙樸初師を団長に、仏教、キリスト教、イスラム教の各代表十人の構成だった。その中国代表団を世界の宗教者が心からの拍手をもって迎え入れた。

プリンストン神学校を会議場にして、早朝から夜の十一時過ぎまで、白熱した討議が進められた。その会議のさなかに、中国代表団が日本の宗教代表に一つの提案をしてきたのである。「核兵器撤廃を目指す第一歩として、世界宗教者平和会議の名をもって核保有国の指導者に対し、自分の国は最初の使用国にならない、と約束してもらおう申し入れを行ってはどうか」という提案であった。

中国代表は真剣だった。さっそく日本の代表が集まって協議をした結果、中国との共同提案のかたちで全体会議にそれを提案することを決めた。しかし、この提案にはソ連代表から強硬な反対があった。「それより先に、大気圏中の核実験停止を呼びかけるべきではないか」という提案もあった。議論が飛び交う中で、日中両国の共同提案は、ようやく満場一致で決議された。

(つづく)

渉外部からのメッセージ

三寒四温という言葉がありますが、本来は、中国東北部や朝鮮半島で使われていた表現で、冬にシベリア高気圧が3日強くなると4日弱まる動きをしたことから、冬に使うのが本来です。しかし、言葉は生き物ですし、既に日本語としての三寒四温は春先の段々暖か

くなるという状態を指す言葉として定着していますので、今の日本においてはこの時期に使うのが正解であるとネット上に載っていました。ご存知でした？この月報を読まれて感想などがありましたらお気軽にお寄せ下さい。RKK京都教会 FAX 075-762-2266